

公民館学習会 みんなでレッツ健康づくり



第768号
発行人●豊丘村公民館
館長 市澤和宏
編集人●長野県下伊那郡
豊丘村公民館報
編集委員会
0265-35-9066
印刷所●龍共印刷株式会社

私たちの村
(2月1日現在 ※外国人を含む)
男 3,232人
女 3,258人
総人口 6,490人
世帯数 2,254戸

体と脳の運動を習慣に

一月十五日に第十回公民館学習会が開催され十九名の受講者の皆さんが参加されました。
今回は南信教育事務所飯田事務所の指導主事、原裕史先生をお招きし「みんなでレッツ健康づくり」と題し、だれでも簡単にできる体と脳の運動を教えてくださいました。



健康には三つの要素「栄養・運動・休養」が必要で、これらのバランスが保たれていることが健康につながるということです。このなかで運動について教えてくださいました。
運動は家事や仕事以外に週二回三〇分以上を習慣的に続けることが望ましいと言われています。運動の種類には様々なものがありますが、今回は誰でも簡単にできる、体と脳の運動を教

健康には三つの要素「栄養・運動・休養」が必要で、これらのバランスが保たれていることが健康につながるということです。このなかで運動について教えてくださいました。
運動は家事や仕事以外に週二回三〇分以上を習慣的に続けることが望ましいと言われています。運動の種類には様々なものがありま

えていただきました。
まずは、寒い時期に血行を良くするストレッチ。実践を交えて教えていただきました。
椅子に座ったままできる足裏やお尻のストレッチ、椅子を支えに立つて行う太ももやアキレス腱伸ばしなど、毎日でも続けられそうなものでした。

また、いつでも元気な足腰を維持するためには筋力をつけることが大事です。例えば片足立ちを一分間両足交互に行う。これは思ったよりも大変です。大変で

開眼片足立ち(左右)
・両手は腰に・片足を5cm位上げる
・ぐらついたら終了

【男性の全国平均】		
65~69歳	78.9	秒
70~74歳	67.8	秒
75~79歳	59.7	秒
【女性の全国平均】		
65~69歳	84.6	秒
70~74歳	71.1	秒
75~79歳	53.5	秒

全国体力・運動能力テストより

（公民館主事 丸山美香）

さんかくセミナー 防災に男女共同参面の視点を 講演とパネルディスカッション 2月1日

さんかくセミナーに参加して
日赤奉仕団委員長 原 房子
さんかくセミナーにパネリストとして参加しました。始めはどんな内容になるのか心配でしたが、このような機会をいただき、あらためて防災について、また日赤奉仕団の活動について考える良いきっかけになったと思います。

講師の渋谷先生のお話は、熊本地震や東日本大震災の避難所生活の聞き取りやアンケート調査から見えてきた女性の意見を紹介し、入浴、シャワー、トイレ、プライバシーの問題等、きちんと課題を分析され、女性にも安心できる避難所運営の今後のあり方を提案されていました。
特に災害時には女性や子供、高齢者は弱い立場になりがちであり、災害弱者の

視点を非常時に活かすことが重要と感じました。
催しの後半は四人のパネリストが各々の立場で現在実行している防災の取り組みについて発表しました。
現在、日赤では防災が重要と言われながら、村全体で六分団、団員数三百六十人と十年前と比べ半減しており、年齢も高齢化が進んでいます。日赤単独の防災活動では限界が来ています。これからは、各区(地



区)の防災組織の中に位置づけてもらい、男女協力して、いざという時に頼りになるつながりを創ってほしい。また、日赤分団が無いところは区の防災組織の中に女性の活躍の場を設けてほしいと考えています。
実際の災害時にそれぞれの団体がどう連携して活動できるかは、村全体の大きな課題と考えます。
豊丘村は三六災害以降、大きな災害はなく、他人事として思っている風潮があります。しかし、「南海トラフ地震は三十年以内に八十%の確率で起きる」と言われています。このセミナーが防災について取り上げたことで、誰もが自分

（玉生雅穂）

「泣いて暮らすも一生、笑って暮らすも一生」。悲しんで暮らしても愉快に暮らしても、一生という時間は変わらない。それならば笑う方を選ぶことで心の負担を軽くできるかもしれない、という格言だ。思い悩むとき、誰かの強い言葉に出会うとモヤモヤした心が晴れることがある。これが名言や格言の効用だ。あなたもそんな言葉を心にしまっているだろうか▼ただし、人の心はそんなに単純ではない。一時的に気分が晴れても、格言はあくまで言葉に過ぎない。必要に応じて時と場合に合わせて使えばよい。同じように悩んだら、またその言葉を頓服薬のように持ち出して服用するだけだ。「座右の銘」などといって万能的解決策のように扱うのは違う▼もし泣いて暮らす人生なら、自分を泣かせる原因や相手と向き合い、必要であれば戦うことにも意味がある。それによって解決することだってあるだろう。ただ笑ってさえいれば悩みが消えるわけではない▼泣いている人「笑って暮らせばいい」などと平気で言える人は、もしかするとその人を泣かせた張本人かもしれない。泣かせたらそんな言葉に耳を傾ける必要はない。こんな言葉がある。「すべてを疑え」。格言を鵜呑みにせず、自分なりに考え抜く姿勢が大切なだろう。あれ、これもまた格言だった。

（玉生雅穂）

公民館報『とよおか』

五大ニュースをさかのぼる

①農水省が全国の農業振興地域から約400の市町村を選び環境、教育、社会福

昭和51年(1976年)の五大ニュース 総得票数450票

1	農村モデル事業に着手	62票
2	南部水道着工(未設地区解消)	56票
3	小学校整備問題進展せず	55票
4	師走総選挙盛り上がる	54票
5	天候不順で農作物に被害	48票

祉を総合的に整備しようとした計画に豊丘村が指定された。村ではあらゆる層の意見を反映できるよう、婦人会や青年団などの代表32人で「豊丘村農村総合整備推進委員会」を設置。

②全村水道構想の最後の工事として南部簡易水道(壬生沢、福島、佐原地区)が着工。加入者100%を目指して計画が進められた。小園の水田をボーリングして水源を確保。標高差450mの福島の千駄木までポンプアップし各地に配水の計画。山間地にも4戸に1基の割合で消火栓が取

り付けられることに。③老朽化した南北小学校を二校のまま改築するか一校に統合するか。小学校整備調査研究委員会が二校制を答申したが、各地から請願陳情が寄せられた。山間地は村の中心に作る一校制を主張。引き続き検討することとなった。

④戦後初の任期4年満了の総選挙。現在でも任期満了による選挙はこのときのみ。ロッキード事件が大きな争点となった。豊丘村の長野三区は中島衛(無所属)が初当選。他に原茂(社会)、向山一人(自民)、小川平二(自民)が当選。現職の林百郎(共産)、吉川久衛(自民)は落選。

⑤果樹は開花期の低温で生育が遅れ小玉傾向。稲作、野菜も低温、日照不足、病

害虫発生で収量減。畜産も輸入肉急増で価格が下がった。

★この年の出来事

戦後生まれ、総人口の過半数となる「ロッキード事件」「ピーナッツ」流行語となる。日本初の五つ子、鹿児島県で誕生

★この年のヒット曲

『おかげ!たいやきくん』子門真人/『ビューティフル・サンデー』ダニエル・ブーン/『北の宿から』都はるみ

監督:吉川 達郎さん
文責:壬生 雅穂

※昭和51年以降の公民館報『とよおか』の縮刷版第2~5集を各4千円でお分けします。ゆめあててお問い合わせください。

私はしゃがれ声(良く言えばハスキーボイス)である。カラオケが始めた頃、ハスキーボイスの森進一や矢吹健の曲を本人になり切って歌った。特に森進一の『命かかても』は玄人受けを狙いよく歌った。なごり切りは歌だけではなかった。「こんばんは、森進一です」をもじって、「こんばんは、小池光好です」と自己紹介した。これがとんでもない恥かきを招くことになった。

私が所属していたスキー部は職員互助会に名を連ねていた。そのため、事業などを通じて職員に還元することが求められた。我がスキー部は年二回職員を募集してスキーツアー(バスツアー)を催行した。行きは

夜行なので連絡事項を周知して就寝。帰りは宿を昼に出発。バスの中では自己紹介をし、歌を歌ったりした。自己紹介の時、例のごとく「こんばんは、小池光好です」とやっていた。歌のコーナーに移った時、若い保育士さんから声がかかった。「小池さん、森進一の『冬のリヴィエラ』の『冬のリヴィエラ』歌ってください」。ドキッとした。一瞬凍りついた。楽曲はほどほど知っていたが、アカペラでは無理だ、歌えない(当時バスにはカラオケはなかった)。

歌は世につれ~ 四十話

恥かきの『冬のリヴィエラ』

上佐原 小池 光好

森進一の歌で歌詞を見ないで歌えたのは泣きを効かせた演歌だけ。先に発売された吉田拓郎作曲の『襟裳岬』がざりざりだった。若い女性のリクエストに泣きの演歌で応える訳にもいかず、『冬のリヴィエラ』は「ちよつと」と言葉が濁した。場はシーンとなり、嫌な空気が流れた。「ごめんなさい」と言ってマイクを司会者に戻した。『襟裳岬』はフォーク調の楽曲だが、演歌風に歌えば演歌っぽくなった。『冬のリヴィエラ』は大瀧詠一の作



中学生 学習のまじり

SDGs 小さな一歩を踏み出そう

3学年総務会

皆さんは、SDGsについて知っているでしょうか。私たち3学年では、SDGsの学習会に参加したり、健康を考えるために保健師さんに話を聞きにいったりと、総合的な学習の時間で一年間学習を深めてきました。私のグループでは、これからの教育には、主体的に取り組む教育環境が必要であると感じたことから、開発目標



SDGsに関する公民館の活動について質問する中学生

夢みた遠か地平線

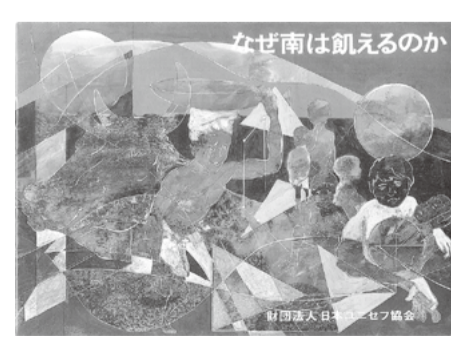
その2 『なぜ南は飢えるのか』

小さな冊子から世界を考える

北市場 福澤郁文

『地域と世界を結ぶ』。YWCA国際センターのプログラムで目指していたことは、南の国々への理解である。アジアやアフリカの伝統文化や人びとの生活への関心は、当時はまだ低かった。ベトナム戦争が終結した一九八〇年代の初め、欧米や日本など先進国といわれる国と発展途上国とよばれた国々との、経済的な格差はひろがり、南の国々は貧困と飢えで苦しんでいた。アジアではカンボジアの内戦、ベトナム戦争、次に中越戦争が勃発し、ボート・ピープルとして国外に逃れようとする人びとが増加、難民問題は世界的な問題として続いている。

この時代には、世界の現状を構造的に理解し、自国主義的な政治経済を改め、途上国支援と理解を進めていこうとする国連組織やNGO・民間海外協力組織が、海外協力支援の必要性を発信し、協力援助していく時代である。



小冊子編集制作もデザインのしごと。表紙絵/福澤郁文

『世界の貧困と飢えは構造的なもの』この冊子は神奈川県内の中学生のすべてに配布され、その後も継続されていった。その後、神奈川県では一九九八年に県立の「地球市民かながわプラザ(あーすぷらざ)」という国際交流を目的とした施設を、本郷台に開設する。六年にわたりこの基本コンセプトの作成にも関わることになった。こどもたちがこの館を利用しながら、豊かな感性をもち、これからの世界をつくりあげていくことが希望としてあった。『こどもの豊かな感性の育成』『地球市民意識の醸成』『国際活動の支援』の三つの

「利益の戦略はデザインにあり」。刺激的な情報を送り込み幻想さへも届ける、利益重視の思考に絡めとられているという想いもある。本づくりや市民活動など社会的広報デザインにこそ...と考えていたけれど。おもうに現代社会のもつ価値観にこそ世界の問題が存在しており、自国主義的利益のみを追い求める社会であることには、疑問も残る。地球環境問題をはじめ、これからの社会の価値観に大きく関わる問題は、どう考えていけばいいのだろうか。



とよおか100年前

『豊丘村民話集』より

利用

いろいろの利用は先に書いたように生活のよりどころであっただけに数限りない。まず飯や汁を炊く。魚や野菜の副食物の焼き物をする。湯を沸かす。寒いときはみな集まって焚き火を囲んで暖をとる。寒い夜にはいろいろを囲んで男は藁仕事、婦女子は糸紡ぎとか繕い物、みんな遅くまで夜業に励んだものであった。

いろいろで焼いて食べたもののいくつかを拾ってみる。まず餅である。昔は今よりたくさん餅を食べた。正月などの餅をたくさんこしらえた。いろいろで餅を焼くための「わたし」という道具があった。火の壺から少し離れたところに置いたわたしの下に、焚き火から

燃え落ちた炭火(焚き落とし)をおきと言った)をかき出し餅を並べ、ひっくり返しながら焼く。ほどよく焼けてふくれあがったところでわたしから下ろし、冷えないうちに醤油やきな粉、小豆餅など好みに合わせて食べる。

魚類もまた専用のわたしがあつて餅焼き同様おきの上で焼く。袋さびの適当に熟れたものをやはりおきの上でぐるぐる回しながら焼く。焼けるとポトポト音をたてはじめる。熱した火の壺のおきや灰をかきのけ、採りたてのナスを火の壺に並べ、その上にもとの熱い灰をかけてしばらくそのままにしておくとふっくらと焼きあがる。甘藷もナス焼きの要領で焼いて食べると非常においしかった。栗の実の焼けたのは天下第一。今の甘栗がおいしいなどと言って

も、いろいろで焼いた栗のおいしさには遠く及ばない。昔はそばを多く作ったので、そば粉の練ったのを皮にして小豆の餡を中に入れてそば饅頭を作っておやつなどに食べたものである。冷えたそば饅頭を熱したいろりの灰の中へ無造作に転がし込む。そして温かく焼けたところを見計らって拾い上げ、掌でポンポンとはたくと完全に灰は落ちてしまふ。これがそば饅頭の特徴であった。

いろいろを使つての炒り物も多かった。わたしたちが幼少のころはお客様でもなければ菓子などはお目にかかれず、もっぱら青少年向けに豆炒りを作つてお茶請けなどにくれた。おばあさんやお母さんには炒り豆の名人がいて、豆と米を炒り混ぜた炒り物はやわらかく香ばしくてなかなかおいしい。片付くまで手が出たものである。

この変更による一番の心配は風でした。周辺には赤松林や民家が点在しており、風による飛び火が原因の火事だけは避けなければなりません。風が強かったらどうしようか。延期か、追

はたまた、小さく始め、追

加追加で焚くかと悩みましたが、当日は快晴の上風もほとんどなく、絶好のどんど焼き日和となりました。片桐幸さんが主体となつて作り回収した事業所向けの大きな門松十数基で周りを囲んだ例年通りの大きなほんやりとすることができました。

年男女の人達によって予定通り十時に点火。参加された人達はお餅やみかん、干物などを焼いて食べ、一年の無病息災を願いました。終始穏やかな天候に恵まれました。無事お焚き上げをすることができ、安堵した次第です。ご協力・ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

初御空願ふは一つ平和の世
寒満月早朝散歩四十五年
年立つや遺影の夫は笑み絶へず
数へ日にお礼参りも叶ひけり
能狂言の招り足しかと年明くる
天竜川の無限のちから初日射す
お品書き一行占むる草石蚕二個
初日の出伊那の連山ゆるぎなし

無住寺の枝調はる暮の庭
尻もちをついて冬晴庭庭リンク
七草の粥に孤心をうすめたり
池田 美和
吉川 明子
北原 昭子

日和に恵まれた「どんど焼き」

第六分館長 小池光好

一月十一日(土)に佐原地区(第六分館)のどんど焼きが赤松林運動公園のグラウンドで行われました。従来は、土曜日の午後門松等を回収して準備をし、翌日の朝七時に点火していましたが、今年は、分館役員の負担を減らそうということで、土曜日の八時から回収してほんやりを作り、十時に点火、一日で終えることにしました。

この変更による一番の心配は風でした。周辺には赤松林や民家が点在しており、風による飛び火が原因の火事だけは避けなければなりません。風が強かったらどうしようか。延期か、追

はたまた、小さく始め、追

加追加で焚くかと悩みましたが、当日は快晴の上風もほとんどなく、絶好のどんど焼き日和となりました。片桐幸さんが主体となつて作り回収した事業所向けの大きな門松十数基で周りを囲んだ例年通りの大きなほんやりとすることができました。

年男女の人達によって予定通り十時に点火。参加された人達はお餅やみかん、干物などを焼いて食べ、一年の無病息災を願いました。終始穏やかな天候に恵まれました。無事お焚き上げをすることができ、安堵した次第です。ご協力・ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

初御空願ふは一つ平和の世
寒満月早朝散歩四十五年
年立つや遺影の夫は笑み絶へず
数へ日にお礼参りも叶ひけり
能狂言の招り足しかと年明くる
天竜川の無限のちから初日射す
お品書き一行占むる草石蚕二個
初日の出伊那の連山ゆるぎなし

こちら資料館 250

あしがわどの 足利殿(声川殿)の茶臼

写真は「足利殿(あるいは声川殿)の茶臼」と呼ばれる室町時代の茶臼です。昨年十月、壬生沢南にある天白社の氏子の皆さんの総意により当資料館に寄託されました。

村誌によると、戦国時代の末期、室町幕府の最後の将軍足利義昭が織田信長によって京から追放された時、足利氏の関係者が壬生沢の地に逃げて来て、声川と名乗って隠れ住んだといわれています。その後、声川殿はここで武技を研きながら田畑を耕し相当の財産を蓄えたようです。ところが、

江戸時代の末期、声川一族のあまりにも傲慢な振る舞いに業を煮やした住民達によつて村から追放されてしまいました。その時残していった物の一つがこの茶臼であるとのことです。

「俗鄙(田舎のこと)では到底見ることができない大型の臼で、しかも精巧にできていて頗る貴重なものである。(村誌上P144)」この茶臼は、声川殿の屋敷跡近くにある天白社の祠

の奥に大切に保管されていましたが、近年、風化による傷みが激しくなってきたことと盗難防止等のことも考え、当資料館でお預かりすることとなりました。

実は、声川殿の遺留品としては既に「螺鈿の矢筒」をお預かりしていて、二階のガラスケース内に展示しています。今回の茶臼を矢筒と並べて展示しようと考

えたのですが、茶臼が大きいため、それができません。

やむなく、茶臼は階段の踊り場に展示することになりました。是非ご覧いただきたいと思

います。



(資料館主任 唐澤武彦)

図書館だより

2月号

移動図書のご案内

三月の移動図書
四日(火) 伴野勤労者福祉センター
七日(金) 壬生沢福島集落拠点施設

本の紹介

「つぼんのスズメ」
小宮 輝之(監修)
中野 さとる(写真)
ボンプラボ(編集)
カンゼン

我々日本人にとって最も身近な野鳥といえるスズメ。そんな彼らの生態について、スズメ写真家の中村さとるさんによる豊富な写真と共に、詳しく知ることができ

る一冊です。スズメの生き

生きとした姿を捉えた写真は、どれも愛らしく見えて飽きません。宅地化が進み、主なねぐらである竹藪が減り、スズメの数も年々減っているそう。本書を読んだ後では、これまで何気なく見ていたスズメのことを、じつと観察したくなるのではないのでしょうか。

『ヤギと暮らす』
今井 明夫(監修)
扶桑社

ヤギと暮らす人々、ヤギの飼育方、ヤギの歴史、などヤギの魅力が詰まった本。ヤギの病気と対処法についても詳しく解説されています。大鹿村で体験宿泊施設を営むヤギチーズ作りの達人小林俊夫さんや、売木村でヤギチーズ工房を営みヤギの放牧を行う池上宝さんについても紹介されています。

昔の暮らしには欠かせない存在だったヤギ。自給自足などの観点から注目が集まる今、興味のある方にとっては役立つ一冊となるでしょう。

『平』 福沢勝美 選
平成もじきに昭和の仲間入り 山本 義彦
平穏な暮らしをくれる家族の和 西元 峯子
軸吟：何あると平ちゃらで居る楽天家 福澤 亀人

柳

〈豊丘村川柳クラブ豊柳会〉

▼課題「平」 福沢勝美 選
平成もじきに昭和の仲間入り 山本 義彦
平穏な暮らしをくれる家族の和 西元 峯子
軸吟：何あると平ちゃらで居る楽天家 福澤 亀人

▼課題「光」 五選
振袖と光る笑顔の新成人 林 もも子
自信作並ぶ直売光る顔 原 美風
▼自由吟 山本義彦 選
拉致の娘はどんな気持ちか初日の出 福沢 勝美
お先にとやわらずに友は不帰の旅 小澤 凜
軸吟：大国が世界の秩序踏みにじり



税についての作文 入賞作品

長野県知事賞

雨でできた傘

豊丘中学校三年

長沼遼介

今の日本で暮らす僕たちにとって、「税」は切っても切れない存在です。買い物をする時には消費税を払うし、会社で働き始めたら給料から所得税が差し引かれます。温泉に入るだけでも入湯税を払わなくてはなりません。このように僕たちの生活と深く関わっている「税」というものに、僕は今までマイナスのイメージを抱いていました。消費税、所得税、入湯税などの税が無ければその分のお金を失わずに済んだからです。さらに、僕たちは日々税として多くのお金を払っている上、そのお金の行方が不透明でした。ゆえに僕の中で「税」は、国民に

降り注ぐ厄介な雨のようなイメージでした。

そんな中、税の作文を書くことになり税について調べてみると僕の中で曖昧だった税の行方がはっきりとしていきました。まずは僕たちが授業で使う教科書。これを児童生徒に無償で配付するために一年間で四百七十億円近くの税金が使われているのです。さらには僕たちが小学校から中学校までお金を払わずに授業を受けられるのも税金のおかげだったのです。道路をいつも安全に車が走れるのも、ごみを出せばごみ収集車が来て集めてくれるのも、救急車を呼べばすぐ無料で駆けつけてくれるのも、全て税金のおかげなのです。税が無ければお金が増えると思っていたけれど、むしろ逆で税によって僕たちの生活が支えられていることを知りました。僕が今まで厄介な雨のよう

だと思っていた税は、国民を雨から守る傘だったので。国民に同じように降るかわりにその後には国民の傘になる、それが税金のどと僕は思いました。もしも税が無かったら、たしかに税の雨は降りません。しかしその分、今まで税の傘によって守られていた他の雨が僕たちに降り注ぎます。僕たち国民は、しっかりと税を納めることであらゆる場面で出会っていた、そしてこれから出会うかもしれない負担から守られているのです。

このように税は僕たちの生活に欠かせないものであるにも関わらず、税に対してマイナスのイメージを持つている人はまだ多くいます。それは、税によるメリットとデメリットの分かりやすさの差が原因だと思っています。商品の値札を見ると税抜と税込が書いてあったり、給料から所得税が差

し引かれたり税によってお金を失う場面はそれが分かりやすいことが多いです。それに対して税の恩恵は整備された道路やごみ回収など多くの人が当たり前だと思っていることが多いです。だから前までの僕のようには税の行方が分からないという人が生まれてしまっているのだと思います。なのでこれから税についてみんなが知れる環境を知ろうと思う気持ちの両方が大切になってくると思います。



税はみんなが同じように降られる雨でできた傘であり、生活を支えているものであるということを忘れずに過ごしていきたいです。

~シリーズ~ 豊丘の自然

No.253

カワラヒワの外巢



カワラヒワの外巢に注目してください(写真大)。気になったので分解してみました。外巢の大部分はビニールテープ(プラスチック)でした(写真小)。

そんな折、二つの新聞記事が飛び込んできました。一つ目は、大型の海ガメが一メートル超四方の大きさのプラスチックシートを胃と十二指腸の間に詰ま

らせて死亡したとの事。二つ目は、以前から問題視されていた海洋でのマイクロプラスチック(微小プラ)が二水系計八地点(天竜川も)で確認されたとの事。生態系はもちろん、人体への影響も懸念されています。プラスチック製品を日々大量に消費している人間が、やらなければならぬ事は唯一つ、野外へは捨てない事!!

ケルビンを6000K 辺りで赤味を

3800K で寒さを表現、全体に目で見えた色とはかけ離れた

ケルビン設定ではなく蛍光灯モードで紫から群青色に

すが同じ光源下で設定を太陽光にすれば、この紫の反対の赤系で写ることになるのです。補色の関係を理解すればどんな時でも思い通りの写真が撮れることなるのです。さあ、カメラを手に設定変更にも挑戦しよう。フォトマスター級 宮下正弘

県租推協会長賞

未来のための健康保険

~日中の比較~

豊丘中学校三年

竹村早織

私の母方の祖父は中国人。中国の黒龍江省で祖母と二人暮らしだ。最近、祖父は体調が悪く自宅で伏せている。私は母に質問した。「どうしておじいちゃんは病院へ行かないの」「お金がないもんでな」「えっ、健康保険があるから、三割負担で済むんじゃないの」。私は率直に疑問を投げかけた。すると、母はこう答えた。「中国の一部の人は日本のように若いときから保

険料を収めとらんのな。だもんで、病院の治療費は全額自己負担になるの」。病院の治療費が全額自己負担? いったいどういうことなのか。そこで私は塾で愛用しているタブレットを使い、調べてみた。すると、これまで日本では当たり前と考えていた常識が、中国では通用しないという事実を知る結果となった。

そもそも健康保険制度とは、病気やケガをした際に医療費の自己負担額を軽減し、私たちの健康を守るための仕組みだ。しかし、日本と中国ではその仕組みや制度の運用に大きな違いがある。日本では国民皆保険制度が採用されていて、す

べての国民が何らかの形で健康保険に加入している。保険料(健康保険税)は、会社勤めの人なら個人と会社の双方が負担し、個人分は給料から自動的に天引きされる。また国民健康保険に加入している学生や自営業の人は、各自で支払う。その保険料は所得によって異なり、高所得の人は多く、低所得の人は少なく設定されている。これに対し中国では、都市部と農村部で異なる保険制度が運用されている。都市部では企業が従業員の保険料を負担しているが、祖父が暮らす農村部では住民達の積立金で医療費の一部をまかなっている。積立金に支払うお金が

少ない分、保障内容も限られている。また、貧困層の中には無保険状態の人が多いという。もう一点、日本と中国で異なるのは給付内容と保険料の体系だ。日本では、高額な医療費が発生した場合でも、基本的には医療費の七十%が健康保険から支払われ、患者は三十%負担すれば良い。さらに、私たち豊丘村の子供達は病院や薬局の窓口で一回だけ三百円を支払えば、あとは村が全額負担してくれるので非常に助かっている。それに対し中国の農村部では医療費を全額自己負担しなければならぬことが多く、祖父のように病院に行くこと

